

体験による教員の魅力発見

高橋 七海（山形県立山形西高等学校2年）

1. 教職の魅力創造プラットフォーム会議に参加して

この度、このような会議に参加させていただき、私にとって教育に携わるさまざまな方々と教職について話し合うという経験はとても貴重なものとなりました。教員を目指す立場、教員の立場、教員を育成する立場といった多方面からの意見が交わされるこの会議で高校生の1人として一緒に考えることができ、大変光栄に思います。

1回目の会議では教員採用試験の倍率が低下していて、教員につく人が減ってきているという問題があり、特に小学校が顕著であるという現状を知りました。その理由を考えると、教員が学生の私たちにとって1番身近な職業であるゆえに、他の職業とは違って、仕事のやりがいや楽しさの裏にある苦労や大変さばかりがイメージされてしまうからだと思います。私は小学校教員体験セミナーや学びのフォーラムに参加してみて、「体験する」ことが魅力発見の最も近道だと考えます。音楽やスポーツでも、他者から好きな理由を一方向的に聞くだけで自分でやってみたことがなければ共感できず、なかなか腑に落ちません。百聞は一見にしかずというように、一筋に言語化できない魅力が体験には隠されていると深く感じました。前述の通り、私たち高校生は見た目や勝手なイメージにとらわれずに、このような将来を考える事業にまずは積極的に参加していきたいと思います。教員に興味があっても、どうしたらいいのかわからない高校生のために、既存の事業の参加できる人数や回数を増やしたり、中学校へも視野を広げてみたりなど体験ができる環境をたくさんつくってほしいです。

2. 小学校教員体験セミナーについて

私はこの活動に1年次と2年次で参加しました。教員を志望するほとんどの人が大学に入ってから教育実習で初めて学校教育の現場を体験すると思います。私たちは高校生のうちから実際に児童と関わったり、小学校の授業を見学したりできる機会があるということは普段の学校生活では味わえない、とても意義のあることだと感じます。会議の中で「教員を志望する半分以上の人が、大学に入る前から志している」とお聞きし、早い段階から体験に基づいて今後の進路を具体的に考えられることはとても恵まれた環境にあると改めて実感しました。また、事前オリエンテーションで授業内の目の付け所や見学のポイントなどを頭に入れて実際の見学に生かし、大学生の方々と一緒に振り返りを行うというプログラム設定にも工夫があると思います。ただ授業を見学してくるだけで終わってしまわずに、個人の気づきを全体で共有することでさらに深い学びになっていると感じました。小学校との調整の難しさなどがあるとは思いますが、そのときに生まれた反省や疑問をもって、もう一度見学に行くことができるとさらに良い活動になると思います。

私は以前から教員になりたいと考えていましたが、活動を通して実際に教員になったときの自分の姿や将来のイメージがより明確化したと感じます。小学校に限らず、少しでも教職のいう仕事に興味があるという人はこのような貴重な機会を大切にしてほしいと思います。